

時代・社会を問い続ける者たち

この不条理に満ちた世界。ときに国家や組織による構造的な暴力、不正、個人に内面化された差別、一人ひとりの生命や権利、自由が尊重されず奪われていくこともある社会。生まれ落ちた「時代」とこの日本「社会」をいかに生きるのかは、すべての人に差し出された問いといえるでしょう。

この講座は、独自の視点で社会を見つめ、半生をかけて実践的な活動、あるいは表現・思想を積み上げ、いま現在も「人びとへの問いかけ」と「社会変革へのアプローチ」を続ける、さまざまな分野の講師が登場します。

長年の経験を通じて、いま何を問うのか、未来をどう展望しているのかなどを提起していただきます。参加者にも活発な議論と交流を期待します。



6/18(火)
10:30
～ 12:30

差別・障害・優生思想—やまゆり園事件を考える 最首 悟 (和光大学 名誉教授)

「いのち」とずっと真摯に向き合われてきた立場から、やまゆり園事件について植松被告との手紙のやり取りについて思うことや、障害を持って生まれてきた娘と向き合う中で思うことについてお話しいたします。

●主著：『皇子が居る 言葉なく語りかける重複障害の娘との20年』世織書房 1998 / 『「瘡(ひ)」という病いからの—水俣誌々パート2』どうぶつ社 2010



7/2(火)
10:30
～ 12:30

少女たちの尊厳の今 大谷 恭子 (弁護士)

国連は、2011年、10月11日を国際ガールズディと定め、少女たちの尊厳とエンパワーメントは国際社会において喫緊の課題とした。世界の少女のみならず、日本の少女たちもまた、子どもであること、女性であることに加え、格差や孤立、虐待、障害等々によって、さまざまな困難に直面している。1956年制定の売春防止法は、勧誘した女性を罰するもの、買った男は処罰されない。風営法は、日本の巨大な風俗産業を支え、性搾取と性被害を合法化し、刑罰規定の厳罰化によっても性規範は決して強化されていない。JKビジネスやAV強制、法からこぼれた「人身売買・取引」は、少女たちの身近にあって、尊厳は踏みにじられている。

●主著：『共生社会へのリーガルベース—差別とたたかう現場から』現代書館 2014 / 『それでも彼を死刑にしますか：網走からペルーへ—永山則夫の遙かなる旅』現代企画室 2010



7/16(火)
10:30
～ 12:30

民と民がつながる世界—「民際協力」の意義 中村 尚司 (パルシック 理事/龍谷大学 研究フェロー)

援助する・されるの関係性ではなく、民と民が協力しあう民際協力の在り方を問うて来た経験からこれまでの活動とこれからの日本とアジアの関係性についてお話しいたします。

●主著：『人びとのアジア』岩波新書 1994 / 『豊かなアジア、貧しい日本』学陽書房 1989



7/30(火)
10:30
～ 12:30

映像を撮ることの意味、見せることの意味 本橋 成一 (映画監督/ポレポレタイムズ社 代表取締役)

炭鉱、サーカス、屠場など数多くの題材を選んで映像を撮ってこられた経験から、そこにいる人びとや風景にどのように引き寄せられるのか、それを撮る意味、そして見せる意味をどのように考えるのか、お話しいたします。

●主な作品：写真集『炭鉱くヤマ(新版)』海鳥社 2015 / 映画『アレクセイと泉』ポレポレタイムズ社 2002



9/3(火)
10:30
～ 12:30

東電原発事故による放射能汚染は科学者に何をもたらしたのか 崎山 比早子 (医学博士/元国会事故調査委員会 委員/高木学校)

科学者は本来真理を追究する人と考えられています。東電原発事故後、科学者は二分化し、その信頼を失いました。科学に信頼を取り戻すために市民科学者にできることは何か、何をすべきか考えます。

●主著：「放射線教育の問題点—なぜ低線量放射線リスクは「わかっていない」とされるのか」『科学』2012年10月号 岩波書店 / 「医療被ばくのリスク」『日本整形外科学会誌』2018年92号 237-250

●参考文献：高木学校(編著)『レントゲン CT 検査 医療被ばくのリスク』ちくま文庫 2014 / 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』徳間書店 2012



9/17(火)
10:30
～ 12:30

肯定と非暴力という姿勢 小泉 英政 (小泉循環農場/憲法いいね!の会 主宰)

成田空港反対運動で三里塚で暮らし45年になる。空港反対の基礎にあったのは「この地で農業を続けたい」という肯定的な思い、有機農業はその思いをさらに豊かなものにした。肯定と非暴力という姿勢から社会と向き合う視点と運動を模索する。

●主著：『土と生きる—循環農場から』岩波新書 2013 / 『みみず物語—循環農場への道のり』コンズ 2004



9/29(日)
14:30
～ 16:00

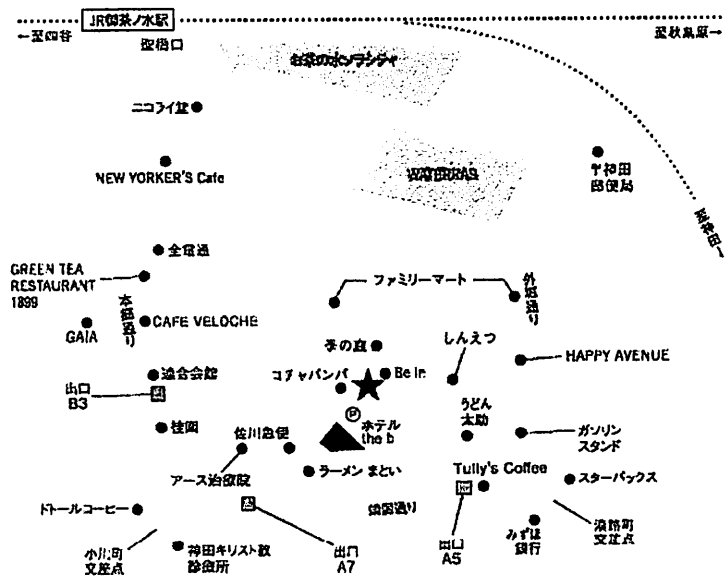
【神奈川県横須賀市を訪問】 市民が運動する・発信する・生きていく 新倉 裕史 (非核市民宣言運動・ヨコスカ)

モットーは「理想を高く掲げない」。そして「持続に耐える」。基地のまちで、希望を見つけるためのキーワードは「糾弾よりも対話」。さて、どんな話に…

●主著：『横須賀、基地の街を歩きつづけて—小さな運動はリヤカーとともに』七つ森書館 2016

>>>お申し込み・お問い合わせは裏面をご覧ください

■会場



★NPO 法人 アジア太平洋資料センター (PARC)
PARC 自由学校 2F 教室

〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町 1-7-11 東洋ビル 2F

TEL:03-5209-3455

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」
東京メトロ丸の内線「淡路町」
都営地下鉄新宿線「小川町」
各 A5 出口より徒歩 2 分

※9月29日開催分のみ横須賀市内施設を予定しています

■参加費：各回 1,000 円 (5 回分以上のまとめ払い各回 900 円)
※25 歳以下無料

■申し込み方法：

お名前、ご連絡先 (日中連絡のつく電話番号 / E-mail アドレス)、参加希望日程をメール (office@parc-jp.org)、電話 (03-5209-3455)、あるいは FAX (03-5209-3453) にてご連絡ください。受講料は当日お支払いください。5 回分以上をまとめ払いされる方には、以降の受講の際に使える受講チケットを回数分お支払い時にお渡します。

<他にも全 14 講座申し込み受付中!!>

1. 「移民社会」日本：私たちがつくる移民政策
2. ネット上の人権侵害を考えるーヘイトスピーチ・フェイクニュース・ネット炎上
3. ファシズムは「家族」の統制とともに
4. 森口豁・ドキュメンタリーの世界ー沖縄そして〈ヤマト〉
5. いま何を語るべきかー関東大震災朝鮮人虐殺
6. グローバル経済と民主主義の未来ールールを変え、大企業の動きを規制し、公共を取り戻す
7. 国境をまたいで考える：日本と「朝鮮半島」
8. 表現することは生きること
9. ビオダンサーいのちにふれること、からだで知ってゆくこと
10. 女性のためのワークショップ からだと心の声を聴いてみよう
11. 武藤一羊の英文精読
12. ケイトリンの” What's Happening In The World!?”
13. 世界のニュースから国際情勢を読み解こう
14. 畑で実践!! <たね>からはじまる無肥料自然栽培

>>>詳しくは資料請求、あるいはウェブサイトへ<<<<

< <https://www.parcfs.org/> >

資料請求・問合せ・申込先

アジア太平洋資料センター (PARC) 自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11東洋ビル3F
(JR御茶ノ水駅徒歩6分 都営小川町駅・東京メトロ淡路町駅・新御茶ノ水駅徒歩2分)

FAX:03-5209-3453 E-mail:office@parc-jp.org

☎ 03-5209-3455

PARC自由学校 検索

<http://www.parcfs.org/>

こちらでも情報発信中! (@parc_jp)